



ステップアップを目指す若手から女性、ジェントルマンドライバーまで個性あふれるドライバーが集結

左&中左：毎年、チャンピオン争いに加わる有力ドライバーをそろえるB-MAXレーシングチーム。昨年は女性ドライバーの長優子（#37）も参戦した。中右：昨年、山田真之亮を東日本3位に押し上げたZAP SPEED。今季は1年ぶりに根本悠生が戻ってくる。下左&下中：アルミクラスながら総合優勝争いに加わるミスト勢。今年55歳の植田正幸はGT300と並行してF4にも挑む。下右：山口大陸は日本一決定戦のみ参戦か？



2015 FORMULA 4 CHAMPIONSHIP

F4 Paddock NEWS+

国内唯一、開発競争のあるフォーミュラカテゴリーF4の魅力

Vol.2



東北の雄、佐々木祐一は「カーボンモノコックになってからはエンジニアが必要な時代になりました。今年はその強化して、たくさん手を入れてマシンを自分にアジャストしようと思っています」と今季への意気込みを語る。

世界でも開発競争が残る稀少なフォーミュラカテゴリーとして、国内で20年以上の歴史を築いてきたF4。マシンセットアップの基礎を学ぶ場として、近年はスーパーFJからF4に上がってきた10代の若手ドライバーたちにとって、F3に続くステップアップアルバートのひとつとして選ばれることが多く、同じコース上で戦うジェントルマンドライバーたちにとっては良い刺激になっているようだ。

23歳から2輪レースを始め、全日本選手権にも7年ほど参戦した経歴を持つ佐々木祐一。フォーミュラへの転向は30歳以降で、フォーミュラトヨタなどを経てF4にたどりついた。「F4は自分でメンテナンスができて自分の収入の範囲内で参戦が可能」なカテゴリーとしつつ、佐々木はこう話す。「ジェントルマンのためのレースという雰囲気は漂う時期もありましたが、いまは若手ドライバーが入ってきてすごく刺激を受けていますね。彼らは冷えたタイヤのときにすごく速い。」

世代や性別を超えた真剣勝負ができる世界

毎戦、表彰台に並ぶ顔に“違い”を見つけられるのがこのクラスの特徴でもある。若手に混じってジェントルマンがチラホラ……それもF4の魅力だ

Text：鈴木みつる (Mitsuru Suzuki/本誌)
Photo：佐々木純也 (Junya Sasaki) / 米重有三 (Yuzo Yoneshige) / 高木翔子 (Shoko Takagi)



それがレースで当たり前となったところ、自分も冷えたタイヤである程度速く走れるようになっていました。また彼らは練習走行から勢いよく、普通に仕掛けてきます。そういう姿勢に「負けてられないな」と思いましたし、若いころ自分も持っていた気持ちを思い出したんです。そういう意味で、若手がたくさん参戦してくてくれるのはすごくうれしいことです」。今年52歳になる佐々木は、東日本シリーズにフル参戦を予定している。

昨年はF3のNクラスにステップアップして、今年はチャンピオンクラスに挑む山口大陸もF4での下積みがいまの自分を支えていると話す。「サスペンションの動きをはじめ、メカニカルグリップの基礎をしっかり学べました。F4ではトップ争いにも加わって、上級カテゴリーを目指す若手や速いドライバーに混じって走れたことが、本当にいい経験になりました」。今年もF3に専念するが、東西の強豪が集うF4日本一決定戦だけは参戦を予定している。

ジェントルマンvs若手

そんなジェントルマンドライバーたちに挑む有力な若手が、今年も多数参戦する。これまで多くの選手をF3へと送り出してきたザップスピードからは根本悠生が参戦。スーパーFJ時代は10連勝という記録を残して、昨年はFCクラスに上がって4勝を挙げた。東日本シリーズでどれだけ強さを見せるのか、注目が集まる。

もうひとりの注目若手ドライバーが牧野任祐。昨年のスーパーFJ日本一決定戦を制し、今年もミストの車両を駆って

西日本シリーズを戦う。カーボンモノコック勢が多数のなか、ミストKKZSは1戦ごとにマシンの小さなアップデートを重ねて、総合トップ争いにも加わる最速のアルミ車両である。一昨年には右川京侍がF4日本一の座を奪ったこともあり、牧野がカーボンモノコック勢を相手にどこまで戦えるのかが、関係者の間では今季の見どころのひとつになっている。また、昨年に引き続き久保宣夫、高橋忠克、そしてGT300クラスにも参戦する植田正幸（西日本+東日本シリーズスポット参戦予定）らジェントルマンドライバーたちもKKZSを駆る。

ミスト同様、コンストラクターとして完成度の高いRKO1を生み出したB・MAXレーシングチームは、12年のF4日本一に輝いた中山雅佳、11年のスーパーFJ日本一に輝き13年からF4に参戦する加藤智というベテランふたりとSYUJIを東日本シリーズに送り出す。他にも昨年に引き続き女性ドライバー、長優子がスポット参戦を、西日本シリーズにはスーパーFJで腕を磨いてきた今井龍太が参戦を果たす。

技術的にはマルチメイクで開発競争があることがF4の大きな魅力だが、そこに集まるドライバーたちもこのように多様。育成主体のミドルフォーミュラとはひと味違う「ジェントルマンvs若手」や性別を超えた真剣勝負が見られ、そこで切磋琢磨して後に上級カテゴリーで活躍する若手ドライバーが生まれる可能性を秘めているのも、このカテゴリーの大きな魅力だ。将来が期待される若手が増える今シーズンは、どんな戦いがコース上で繰り広げられるのか楽しみだ。